

論文の内容の要旨

Number of attending physicians and accumulated organ damage in patients with Systemic lupus erythematosus: LUNA registry cross-sectional study

(SLE 患者における主治医人数と障害の蓄積：LUNA レジストリ、横断研究)

掲載雑誌名

Rheumatology and Therapy. doi:10.1007/s40744-022-00528-8 2022 年

医学研究科内科系内科学（リウマチ・膠原病内科学分野）専攻 博士課程
柳井 亮

内容要旨

【背景・目的】

全身性エリテマトーデス（SLE）は長期にわたる疾患であり主治医変更が多くなることがある。本研究では SLE 発症後の主治医の人数が臓器障害と関連するかどうかを検討した。

【方法】

14 施設コホートに登録され罹病期間 6 ヶ月から 10 年の SLE 患者を対象とした。要因は発症後からの主治医人数とした。主要転帰は SLE Damage Index (SDI) とした。副次転帰は、ステロイド関連障害とした。多重ロジスティック回帰を用い、年齢、性別、罹病期間、SLE による入院回数、診断時の疾患活動性、Emotional Health の交絡因子を調整し、主治医の数と SDI との関連を横断的に解析した。

【結果】702 人の参加者のうち、年齢中央値は 46 歳（四分位範囲 35-58）、86.5%が女性であった。罹病期間は 7.3 年（4.3-11.3）、SLE による入院数は 1（1-3）、主治医数は 3（2-4）、SDI は 0（0-1）であった。主治医の数は SDI と有意に関連していた（オッズ比 [OR] 1.14（95%信頼区間 [CI] 1.03-1.26））。副次的アウトカムで、主治医の数は副腎皮質ステロイド関連障害と有意に関連していた（OR 1.22, 95%CI 1.09-1.38）。

【考察】本研究により主治医の数が増えるにつれて SDI が増加する可能性が示された。主治医変更は、疾患においてもより注目されるべきテーマである。